

# 日本モビリティマネジメント会議(JCOMM)への発表申込について



## 日本モビリティ・マネジメント会議(JCOMM)とは

過度な自動車利用から公共交通や自転車への自発的な転換を促す「モビリティ・マネジメント(MM)」の推進を目的に、行政・研究者・実務者が情報共有・議論する会議



口頭・企画セッションの様子



ポスターセッションの様子

## 第21回 日本モビリティ・マネジメント会議 開催概要

開催日: 2026年9月4日(金)-5日(土)  
 会場: 新潟県湯沢町 湯沢カルチャーセンター  
 主催: (一社)日本モビリティ・マネジメント会議

事業所と連携して実施した『せつつキッズファクトリー』での取組について発表を申込予定

### <申込の目的>

- ・取組の内容を広く発信し、他の地域にも役立ててもらう
- ・外部からの評価を通じて、取組の意義や価値を地域住民や事業所に実感してもらう



公共交通案内ポスター作成



イベントポスターの掲示



無料バスチケット



バスノベルティの配布

主催：(一社)日本モビリティ・マネジメント会議 / 共催：土木学会(予定) / 後援：国土交通省(予定) ほか

## 第二十回 日本モビリティ・マネジメント会議 The 20th Japanese Conference On Mobility Management

### 2025.9/12 (Fri)-13 (Sat)

札幌コンベンションセンター 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1  
特別会議場・大ホール ほか  
札幌市営地下鉄東西線「東札幌駅」徒歩8分

### JCOMM 札幌大会のご案内

モビリティ・マネジメント (MM) は、社会心理学や社会学などの学術的知見を基盤とし、人々にコミュニケーションで働きかけることで交通行動の自発的な変化を促す交通施策です。

我が国におけるMM施策が、今後も効果的・広範に推進されることを目指して、行政、大学、コンサルタント、市民団体等のMM関係者が一堂に会する日本モビリティ・マネジメント会議 (JCOMM) の第二十回会議を北海道札幌市にて開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。



すすきの交差点の札幌市電 (ボラリス)

### 発表申し込み

2025. 5/26 締切

- ①発表者・連名者の氏名と所属、②代表者の連絡先、③発表概要 (800 字程度)、④キーワードを、HP の投稿フォームから送信してください。

※発表形式にはポスター発表 (ポスター掲示と説明)、口頭発表 (スクール形式での口頭発表) の2通りありますが、個々の発表の形式については、プログラムの編集上の都合から、JCOMM 実行委員会にて検討させていただきます。

※発表申し込み無料

### 参加申し込み

2025. 8/18 締切

- ①氏名 ②所属 / 勤務先 ③連絡先 (住所、tel、e-mail) を、HP に記載の参加申し込みフォームから送信してください。
- ※参加費 (資料代含む) 3,000 円、当日参加も可能

第二十回日本モビリティ・マネジメント会議は土木学会・建設コンサルタンツ協会 CPD プログラム認定予定です

令和7年度JCOMM 賞各賞 募集は締め切りました



JCOMM賞各賞 (マネジメント賞・プロジェクト賞・デザイン賞・技術賞) の表彰は第二十回JCOMMで行います。詳細はJCOMMHPをご覧ください。

一般社団法人日本モビリティ・マネジメント会議 事務局  
京都大学都市社会工学専攻藤井研究室内

e-mail: info@jcomm.or.jp  
<https://jcomm.or.jp/>  
キーワード「JCOMM」でWEB検索してください。



### 第二十回日本モビリティ・マネジメント会議デザイン賞

## 「みんなで学ぼう！バスのあいうえおカルタ」



好きな絵札に投票してください！

### 制作経緯

令和6年度共創・Ma a S 実証プロジェクトに採択された人材育成事業において、モビリティ・マネジメントのコーディネーター候補者向けの支援ツールとして制作。

### 背景目的

モビリティ・マネジメントにおける遊びを軸とした各種ツールは高い学習性が期待されるが、その多くは時間や場所を要したり、開発者による十分な説明や伴走がないと運用が難しい。こうした運用面での課題を乗り越えて自走・普及していくモビリティ・マネジメントツールを制作することを目的としてこのカルタを企画・制作した。

### 運用上のメリット

帯広市における小学校出前講座において使用した際にはこれまでに使用したことのある「バスすごろく」に比べて運用のスムーズ化が実現でき、子どもたちの反応も非常に良かった。またゲームを最後まで完了させなくともその時点の枚数で勝者を決めることもできるので、授業などの時間制限のある場面でも有効に活用できることが証明された。



## 阪神バス路線で西宮回生病院の無料送迎を代替 ～尼崎モデル（あまドラモデル）の応用！共創ノウハウの確立へ～

### ■本取り組みの4つのキーワード

- ① 輸送資源の効率化
- ② 「公共交通不便地域」の解消
- ③ 運賃返金システムによる“実質無料”での輸送サービス提供
- ④ “あまドラモデル”の水平展開



### Chapter 1 取り組みの背景

#### <取り組み前>



- 阪神バス**
  - 2021年7月に尼崎ドライブスクール（あまドラ）の無料送迎を路線バスに代替した実績あり。
  - 一方で、深刻化する運転士不足等の影響を受けて、西宮浜手線の路線休止も含めて検討していた。
- 西宮回生病院**
  - 阪神西宮（阪急夙川）方面に無料送迎を運行。
  - 一方で、運転士不足により持続可能な運行に懸念があった。
- 西宮市**
  - 芦屋市と隣接する浜手エリアは「公共交通不便地域」となっており、不便解消に向けた手段を模索していた。

⇒**阪神バスがあまドラでの実績を踏まえ、他地域への展開先として西宮回生病院を西宮市に提案したところ、病院側もこれに賛同した。**

### Chapter 2 取り組みのねらい

#### <取り組み後（2024年2月23日実施 ダイヤ改正）>



- 阪神バス**
  - 既存バス路線（西宮浜手線）の維持
  - 沿線住民の潜在需要喚起によるバスの利用機会創出
  - 病院からの固定収入確保
- 西宮回生病院**
  - 無料送迎の運行費用削減および事故リスク回避
  - 運転士不足の解消
- 西宮市**
  - 公共交通不便地域（約7ha）の解消
  - 既存公共交通の維持

⇒**さらに西宮回生病院内に運賃返金システム（※）を設置することで、病院利用者にとっても、実質無料運賃のまま乗り降り可能な停留所が増えるメリットが生まれた。** ※往路の運賃を返金し、復路の乗車券を発券するシステム

## “四方よし”の実現

## 能登半島地震発生を受けた地域公共交通情報提供プロジェクト ～災害対応経験の伝承による運用～

公立小松大学 高山 純一（代表）、株式会社日本海コンサルタント 塩土 圭介（事務局）・片岸 将広、北陸鉄道株式会社、金沢の都市と交通を考える会（K・C・A・T）、国土交通省北陸信越運輸局、広島大学 藤原章正、呉工業高等専門学校教授 神田 佑亮、合同会社MoDiP 諸星 賢治

### 1. 2024年1月1日防災～その時は突然やってくる～

- ✓ 「半島特有」の交通課題
  - 避難者、支援者が1本しかない道路に集中し、大渋滞が発生

- ✓ 公共交通復旧の動き 日々刻々と復旧が進み、人流も復活

### 2. 取組のきっかけ

- ・道路網の復旧に合わせ公共交通網の復旧が進むが、状況は日々刻々変化
- 各事業者の発信する復旧情報を一覧にして発信したい！
- ついでに、公共交通利用へ誘導し道路渋滞を緩和させたい！(MM)

平成30年の西日本豪雨時の災害時公共交通情報提供の知見を生かし、地元(塩土・片岸)と、それを支援する経験者(神田、諸星など)とでタッグを組んで、「なんとかしたい」という思いを実現

能登半島地震 地域公共交通情報提供ページ  
<https://noto.k-cat.jp>

### 3. 広島(西日本豪雨)から石川(能登半島地震)への連携・継承

- ▼西日本豪雨(2018)
  - 災害時BRTを含めた交通手段全般の情報提供サイト
  - 学+産官のコミュニティが主体(K-CAT)
  - 学が主導し、官民と連携
  - 広島県バス協会のサーバ・ドメイン下
- ▼能登半島地震(2024)
  - 学+産官のコミュニティが主体(K-CAT)
  - 現地の関係者の方々の連携構築
  - K-CATのサーバ・ドメイン下

### 4. 情報の取得と更新方法 (PULL型からPUSH型の運用へ)

- 公式HPでオープンになっている情報を一瞥でまとめた
- 詳細な情報は公式へのリンクへ誘導することにより、情報の一貫性と信頼性を担保。
- 事務局が毎日各交通機関の更新状況を確認し、更新を反映。

### 5. 主なポイント(見た目の工夫)

- 目次の色付け 一目でどこが通常時と違う運行となっているか把握しやすいよう工夫